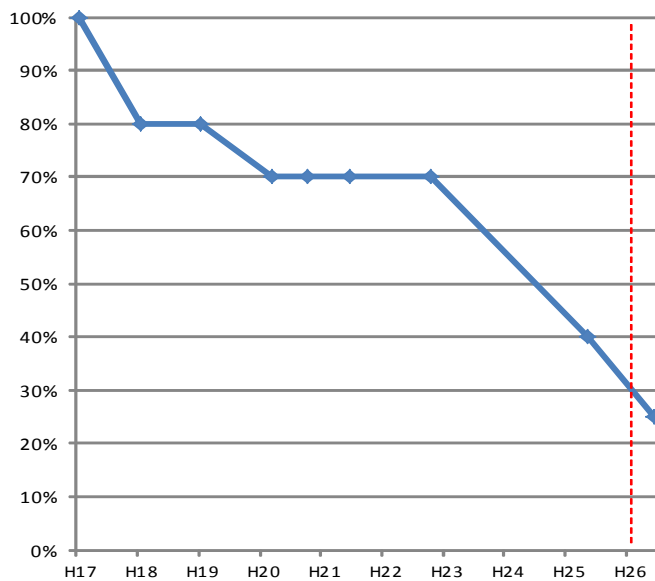


樹種名	メグスリノキ (別名：チョウジャノキ)	
科目	カエデ科	
学名	<i>Acer nikoense</i>	
分布	カエデ科の落葉高木で、温帯の山地に生え、宮城県以南の本州から九州に分布する。主に、標高 700m 付近に多く見られる。朝鮮半島から中国に、マンシュウカエデなど近縁種が 4 種分布する。	
樹木特性	半陰樹であり、山地の落葉樹林内に点在し生息する。	
用途	器具材として利用。	
植栽本数 (植栽密度)	28 本 (他樹種との混植)	
特徴	<p>【樹形】 落葉高木で大きいものでは、樹高 10m に達する。 葉は長さ 5~13cm 程度で、三枚の小葉からなる複葉で対生し、三出複葉で、2~3cm の葉柄がある。小葉は長楕円 (だえん) 形で長さ 7 ~ 15cm、幅 3~7cm、縁 (へり) の上半部に波状の鈍鋸歯 (きよし) がある。葉柄、葉裏に毛が多い。冬芽の鱗片 (りんぺん) は 8~15 枚の対となる。</p> <p>雌雄異株。5 月ごろ、散形状総状花序をつくり、緑色を帯びた淡黄白色の小花を 3~5 個開く。萼片 (がくへん)、花弁はともに六枚、雄しべは 12 本ある。果実は二翼があり、堅い毛が多く秋に熟す。</p>	
試験地での様子	ポット苗を植栽し、植栽直後から原因不明の枯死が発生した。現存率は 25% と低い結果であったが明確な枯死原因は特定できていない。現存木の樹高成長は良好に推移している。	
被害	不明	

メグスリノキ 現存率



【現存率】

植栽後に枯死が発生しているが、原因は不明である。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 25.0%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

【根元・胸高直径】

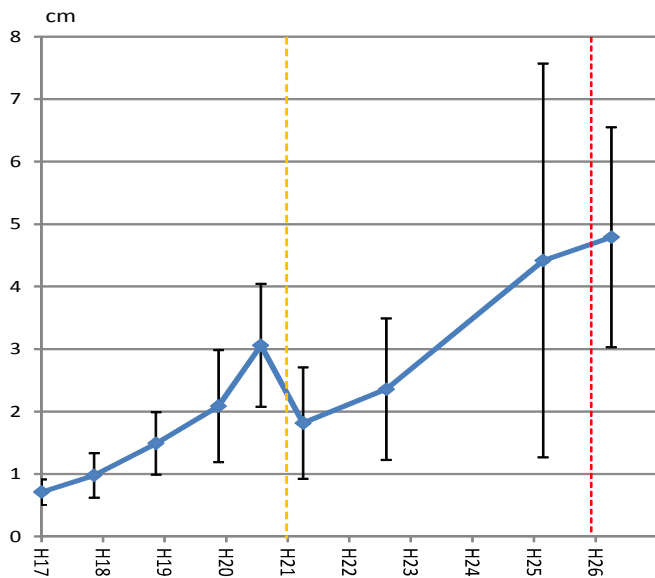
順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は 4.79 cmであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

メグスリノキ 根元・胸高直径



【樹 高】

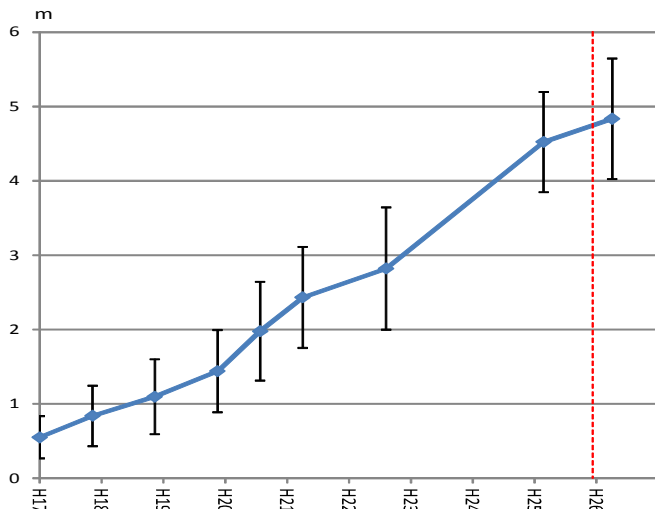
順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は 4.84m であった。

※ 赤線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。



メグスリノキ 樹高



《プチ情報》

樹皮は煎（せん）じて洗眼薬とする。名は、これに由来するが、別名チョウジャノキ（長者木）ともいう。

樹皮にはロドデンドロールやエピ・ロードデンドリン、トリテルペン、タンニン、ケルセチン、カテキンなど多くの有効成分が含まれており、眼病の予防・視神経活性化・肝機能の改善などの効果があることが星薬科大学の研究により実証された。近年の実験で肝障害防護効果、アルドース還元酵素活性の阻害作用、メラニン産生抑制効果、抗炎症作用など多くの効用が証明されているが、いまだ十分な検証が行われているとはいえ効用のメカニズムは解明されていない部分も多い。

薬用として使用する場合は春から夏にかけて採取した樹皮または小枝を日干しし、1 日量 15 から 20g を水 300mL で 1/3 まで煎じて服用する。これには独特のおいがあり、慣れていない場合は飲みづらいとされる。

別名は「長者の木」や「千里眼の木」、「ミツバナ」、「ミツバハナ」とも呼ばれる。